

## 2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	水と緑の公私計画論刊行小委員会		主 査 名：岡村幸二 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：持田 灯
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、公私計画論という観点から、水辺空間の所有・管理・利用等を巡る、水辺空間の計画の方法論等を明らかにすることを目的として、研究成果をとりまとめた出版刊行を行う。</p> <p>初年度：目次構成の確定、事例内容整理を行い、執筆者により原稿とりまとめ。 2 年度：目次案を見直し、一次原稿を収集し、出版社に草稿を提出する。 継続 (1 年度)：出版社との校正原稿のやり取りを経て、入稿、印刷、出版まで。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：岡村幸二 (建設技術研究所) 幹事：菅原遼 (日本大学) 委員：市川尚紀 (近畿大学)、村川三郎 (広島大学名誉教授)、畔柳昭雄 (日本大学)、上山肇 (法政大学)、青木秀史 (オリエンタルコンサルタント)、飯田哲徳 (建設技術研究所)、小海諄 (日本工営)、田中貴宏 (広島大学)、長屋静子 (流域フォーラム)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2021 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス： なし	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む) 2021 年度、4/16(web), 5/24(Web), 6/17(Web), 7/5(Web), 8/2(Web), 11/11(Web)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	「水辺の公私計画論」—地域の彩る 水辺の場づくり— A5 判 144 頁 (予定)
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. コロナ禍で会議が開けずに、目次確定、一次原稿作成が遅れた (70%) 2. 研究成果のまとめ方・刊行物の目次構成は十分に検討できた (90%)
委員会活動の問題点・課題	1. 対面の会議ができないことも影響して、目次構成や論文内容のレベルアップが思うように進められなかった。 2. 出版に向けてのシンポジウムなどを通じて、「公私計画論」の PR をもっと進めていくべきであると思う。

## 2021 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A <b>B</b> C      D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・刊行物の内容の骨格をどのような示し方をするかを議論する中で、10 人のメンバーのうち、主要メンバーによる「公私計画論」の「論」をはる展開とするか、メンバー全員が参加しやすいように、「事例中心の目次構成」とするかを何度も議論して、建築学会の研究成果にふさわしい目次構成を最終的に組み立てるように配慮した。</p> <p>・出版社は技報堂出版に内定したが、建築学会が実施する査読のタイミングとその実施期間について、早めにスケジュールに盛り込む必要がある。出版社独自にも「査読 (チェック)」を行う予定があり、この両者をうまく連動させることが有意義であると考えている。</p> <p>・当初、2021 年度を刊行小委員会の最終年度として臨んだが、コロナ禍の研究活動は十分な取りまとめがはかどらず、同時に進行した公私計画論小委員会は 2021 年度で終了するが、書籍化の刊行小委員会はあと 1 年の実質延長が必要となった。</p> <p>・</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。